

台湾における左官装飾の変遷(1860～2010)

---材料・技芸・職人---

【目次】

序論：本論文の視座と課題.....1	
1.研究背景及び研究動機.....1	
2.本論文の問題意識及び.....2	
3.研究目的.....3	
4.既往研究の状況.....5	
5.研究範囲及び研究方法.....7	
6.用語定義.....9	
第1章 図説の絵画製作と道具、材料の変遷.....13	
第1節 左官装飾図説の絵画製作と装飾部位の構図.....13	
一、左官装飾図説の絵画製作と利点.....13	
1.評価額.....14	
2.価格に対する助言と値引き交渉.....14	
3.職人が見せる技量と業主に対する信頼の獲得.....14	
二、装飾部位から見る構図の原則と技巧.....19	
1.排頭の構図.....21	
2.塀頭の構図.....24	
3.水車堵の構図.....25	
4.壁堵の構図.....27	
5.神棚の構図.....29	
第2節 左官装飾技芸の使用道具、材料変遷と特色分析.....31	
一、使用道具と特色.....31	
二、種石材料の種類と来源.....36	
三、調合材料の種類と変遷.....38	
四、人造石塗り材料の地域特色分析.....40	
第3節 人造石塗りの意義、分類と技術継承.....43	
一、人造石塗りの意義.....43	
二、人造石洗出しの分類.....45	
三、台湾人造石洗出しの出現と運用.....47	
四、職人技術の継承と職別.....49	

第2章 人造石塗に関する技法と貼付材料、交趾焼の変遷.....51

第1節 人造石塗に関する技法と特色比較.....51

- 一、「平面の人造石洗出し」技法の分析.....51
- 二、「土糊の人造石洗出し」技法の分析.....54
- 三、「型製造の人造石洗出し」技法の分析.....57
- 四、人造石洗出し形式の比較と修復原則.....60

第2節 貼付材料の転変から見る剪粘の変遷.....62

- 一、茶碗と陶瓷器の破片（清朝～1960年代）.....62
- 二、カラーガラス（1950年代～1990年代）.....65
- 三、アクリサンデー板(1980年代).....68
- 四、定型陶片及び定型陶製品（1990年代～現在まで）.....69
- 五、剪粘専用の模造茶碗（1990年代～今まで）.....71

第3節 台湾交趾焼の発展と変遷.....73

- 一、交趾焼という名称.....73
- 二、台湾交趾焼の発展及び変遷.....78
 1. 明末清初時期：台海使槎録の記載.....78
 2. 清中葉時期：葉王の傑作及び交趾焼の専門店.....80
 3. 日本統治時代：職人の承伝系譜.....84
 4. 戦後～1970年代：台湾地元職人の活躍.....85
 5. 1980年代以後：交趾焼工藝の轉型.....87

第3章 清國職人の影響と台湾本土職人の活躍.....91

第1節 日本統治時代「清國職人」の渡台、伝承と影響.....91

- 一、潮州派何金龍の剪粘絶技と影響.....91
 1. 何金龍の生い立ちと作品.....91
 2. 何金龍の伝承と得意弟子.....93
 3. 何金龍の技芸特色と影響.....94
- 二、泉州派洪坤福の伝承と貢献.....97
 1. 洪坤福の渡台背景と事蹟.....97
 2. 洪坤福の伝承と貢献.....99

第2節	台湾本土職人「五虎將」の活躍と伝承貢献.....	103
一、	五虎將の由来と作品.....	103
1.	陳天乞(1906-1991).....	104
2.	張添發(1905-1977).....	106
3.	陳專友(1912-1981).....	107
5.	姚自來(1911-2007).....	108
4.	江清露(1914-1994).....	109
二、	五虎將の協力合作と技芸特色.....	111
第3節	廃棄材料の再利用から見る陳三火の剪粘創意.....	114
一、	伝統の堅持と改変.....	114
二、	廃棄材料の再利用の突破と技芸の創新.....	116
1.	陳三火の「隨縁技法」.....	116
2.	作品の強烈な動態感.....	117
3.	半面浮き彫りから立体彫刻まで.....	119
4.	新たな題材の運用.....	121
5.	新材料の試みと禁忌の突破.....	122
三、	伝統芸術保存者の指定と期待.....	125
第4章	職人の対場競作と傳承制度の検討.....	127
第1節	職人の対場競作から見る左官装飾作品.....	127
一、	対場作(対場競作)の定義.....	127
二、	競争の対場作と勝負の影響.....	132
三、	協力の対場競作と職人達の合作.....	137
四、	協力対場作の転変と成因分析.....	138
第2節	傳承制度の検討と作品の修復提案.....	139
一、	職人伝承制度の検討.....	139
1.	世襲(家伝)制.....	139
2.	師弟制度.....	140
3.	研修学習制.....	140
4.	制度の検討と比較.....	141

二、文化資産保存法の修訂から見る伝統工芸の保存.....	143
1.戦後文化政策の背景と文化資産保存法の修訂.....	143
2.伝統工芸の保存現況と伝統工芸家の地位の向上.....	149
三、左官装飾作品の保存現況と修復提案.....	151

第5章 結論.....157

一、本論文のまとめ.....	157
二、本論文の研究成果、限界と今後の保存修復に向けた提案.....	167

参考資料と文献史料.....170

付録1：左官装飾職人の寺院設計図と文様設計図.....付録-1

付録2：職人の聞き取り資料

付録3：左官装飾作品の調査図表

図一覧

序論		
【図 0-1】	土糊 (台北県淡水瑾山寺、筆者撮影)3
【図 0-2】	人造石塗 (桃園県大溪老街、筆者撮影)3
【図 0-3】	剪粘 (台南佳里金塘殿、筆者撮影)3
【図 0-4】	交趾焼 (新竹県新埔廣福宮、筆者撮影)3
【図 0-5】	壁堵(壁)の位置と名称(引用林會承、「台湾傳統建築手冊」p54、1990年、藝術家出版社)11
【図 0-6】	伝統建築立面の装飾部位の名称(説明図は新竹城隍廟前殿の建築立面、文字説明追記)12
第1章 図説の絵画製作と道具、材料の変遷		
【図 1-1】	王保原の前殿剪粘略圖(引用黃秀蕙、「巧手天成」p90、2011年、台南市:台南市政府文化局)13
【図 1-2】	陳世仁景福宮屋頂と細部説明(陳世仁提供)14
【図 1-3】	陳世仁の麒麟下絵と寺廟立面図(陳世仁提供、筆者複写)15
【図 1-4】	陳世仁の鳳凰下絵と寺廟金亭の断面図(陳世仁提供、筆者複写)15
【図 1-5】	王保原の「鳳山市保興宮屋頂剪粘略圖」(引用黃秀蕙、「巧手天成」p93、2011年、台南市:台南市政府文化局)16
【図 1-6】	王保原の「營頂佳福寺屋頂剪粘略圖」左の辺りは前殿、右の辺りは後殿(引用黃秀蕙、「巧手天成」p92、2011年、台南市:台南市政府文化局)16
【図 1-7】	大門の建築立面図(陳世仁提供)17
【図 1-8】	陳世仁がお寺前殿の立面図は非常に詳細に描く(陳世仁提供)18
【図 1-9】	屋根装飾部位の名称(引用李乾朗、「台湾古建築圖解事典」p111、2003年、遠流出版事業有限公司)19
【図 1-10】	伝統建築立面の装飾部位の名称(説明図は新竹城隍廟前殿の建築立面、筆者改修)19
【図 1-11】	陳世仁鏤絵作品のデザイン(筆者撮影)20
【図 1-12】	王保原の剪粘略圖(引用黃秀蕙、「巧手天成」p92、2011年、台南市:台南市政府文化局)20
【図 1-13】	排頭の位置(引用李乾朗、「台湾古建築圖解事典」p112、2003年、遠流出版事業有限公司)21
【図 1-14】	排頭の設置場所は屋根から突き出た平台の位置(筆者撮影)21
【図 1-15】	排頭の人物が前傾する傾斜角度も大きくなる(筆者撮影)21
【図 1-16】	視覚的に屋根の排頭が目立つ(筆者撮影)22
【図 1-17】	武將(筆者撮影)22

【図 1-18】	地位の違いによる主従関係を表す（筆者撮影）22
【図 1-19】	三層式の排頭（筆者撮影）22
【図 1-20】	主役の人物の見せ方については上下二層式の製作が採られる（筆者撮影）22
【図 1-21】	主役の人物の見せ方については上下二層式の製作が採られる（筆者撮影）23
【図 1-22】	主役の人物の見せ方については上下三層式の製作（筆者撮影）23
【図 1-23】	塀頭の内容は単純で、静態的な場面で構成される（筆者撮影）24
【図 1-24】	孔子の儀礼を問う、画面中央に主役と脇役を同列に並べる（筆者撮影）24
【図 1-25】	台北保安宮、静態的な場面で構成される塀頭（筆者撮影）24
【図 1-26】	台北保安宮、三層式の塀頭（筆者撮影）24
【図 1-27】	八仙と童子（筆者撮影）24
【図 1-28】	水車堵の構造（引用李乾朗、「台湾古建築圖解事典」p76、2003年、遠流出版事業有限公司）25
【図 1-29】	姚自來の滑水聘賢、人物の物語は横方向に配置される（筆者撮影）25
【図 1-30】	水車堵は水平方向に細長い構図となり、堯帝と大舜二人の姿態や表情などの表現が強調できる（筆者撮影）25
【図 1-31】	封神演義題材「南天門」の水車堵構図と作品現況（筆者撮影）26
【図 1-32】	三国演義題材「許褚裸体戦马超」の水車堵構図と作品現況（筆者撮影）26
【図 1-33】	三国演義題材「斬蔡陽」の水車堵構図と作品現況（筆者撮影）26
【図 1-34】	壁堵（壁）の位置と名称（引用林會承、「台湾傳統建築手冊」p54、1990年、藝術家出版社）27
【図 1-35】	北港朝天宮の前殿壁堵（筆者撮影）27
【図 1-36】	台北保安宮正殿の虎側の壁堵（筆者撮影）28
【図 1-37】	人物の配置は避け、窮屈で逼迫したようにせず、視覚焦点と視覚バランスが取れる（筆者撮影）28
【図 1-38】	四季平安と祈求吉慶の構図、鑑賞者は正視の角度になる（筆者撮影）29
【図 1-39】	通宵慈雲寺神棚の（筆者撮影）29
【図 1-40】	王保原の剪粘堵の略圖（引用黃秀蕙、「巧手天成」p93、2011年、台南市：台南市政府文化局）29
【図 1-41】	通宵慈雲寺神棚の焼き物の構図配置（筆者撮影）30
【図 1-42】	神棚の位置は鑑賞者の俯角であり、構図配置の難度が高い（筆者撮影）30
【図 1-43】	型折（筆者撮影）31
【図 1-44】	型折（筆者撮影）31
【図 1-45】	噴霧器バルブ（筆者撮影）31

【図 1-46】	噴霧器の底部（筆者撮影）31
【図 1-47】	噴霧器（筆者撮影）31
【図 1-48】	噴霧器（筆者撮影）31
【図 1-49】	噴霧器の実演（筆者撮影）31
【図 1-50】	人造用ブラシ（筆者撮影）31
【図 1-51】	ブラシかけの実演（筆者撮影）31
【図 1-52】	灰匙（筆者撮影）33
【図 1-53】	塗付け鏝（筆者撮影）33
【図 1-54】	角鏝（筆者撮影）33
【図 1-55】	台湾土糊兼剪粘職人の使用する鏝（筆者撮影）33
【図 1-56】	台湾土糊兼剪粘職人の使用する鏝（筆者撮影）33
【図 1-57】	塗付け鏝を使う（筆者撮影）33
【図 1-58】	両頭さじ（筆者撮影）33
【図 1-59】	両頭さじ（筆者撮影）33
【図 1-60】	左官工具（筆者撮影）33
【図 1-61】	両頭さじの実演（筆者撮影）33
【図 1-62】	両頭さじの実演（筆者撮影）33
【図 1-63】	両頭さじの実演（筆者撮影）33
【図 1-64】	寒水石（筆者撮影）36
【図 1-65】	宜蘭石（筆者撮影）37
【図 1-66】	特白石（筆者撮影）37
【図 1-67】	蛇紋石（筆者撮影）37
【図 1-68】	消石灰（筆者撮影）38
【図 1-69】	稲の殻（筆者撮影）38
【図 1-70】	苧（筆者撮影）38
【図 1-71】	石粉（筆者撮影）38
【図 1-72】	寒水石（筆者撮影）39
【図 1-73】	宜蘭石（筆者撮影）39
【図 1-74】	宜蘭石（筆者撮影）39

【図 1-75】	特白石（筆者撮影）39
【図 1-76】	大白石（筆者撮影）39
【図 1-77】	蛇紋石（筆者撮影）39
【図 1-78】	玫瑰石（筆者撮影）39
【図 1-79】	大理石黒（筆者撮影）39
【図 1-80】	老古石、貝殻、かぎ殻（筆者撮影）39
【図 1-81】	黄金石、雲彩石（筆者撮影）39
【図 1-82】	珊瑚石（筆者撮影）39
【図 1-83】	捷安砂、魔力砂（筆者撮影）39
【図 1-84】	馬安石、彩虹石（筆者撮影）39
【図 1-85】	石粉（いしこ）（筆者撮影）39
【図 1-86】	顔料（筆者撮影）39
【図 1-87】	大正 8 年～9 年に建設された桃園県大溪の街並み（筆者撮影）40
【図 1-88】	大正年間に建設された台北大稲埕の街並み（筆者撮影）41
【図 1-89】	サンプル G-39（左）、サンプル G-42（右）（筆者撮影）42
【図 1-90】	サンプル F-19（左）、サンプル F-12（右）（筆者撮影）42
【図 1-91】	サンプル A-11（左）、サンプル A-9（右）（筆者撮影）42
【図 1-92】	サンプル B-6（左）、サンプル B-7（右）（筆者撮影）42
【図 1-93】	サンプル C-4（左）、サンプル C-26（右）（筆者撮影）42
【図 1-94】	サンプル D-2（左）、サンプル D-13（右）（筆者撮影）42
【図 1-95】	サンプル E-17（左）、サンプル E-15（右）（筆者撮影）42
【図 1-96】	サンプル E-2（左）、サンプル E-28（右）（筆者撮影）42
【図 1-97】	外壁部の人造石（筆者撮影）43
【図 1-98】	人造石塗（（筆者撮影）43
【図 1-99】	美観且つ地位、財力を誇示（筆者撮影）44
【図 1-100】	自由にデザインできる（筆者撮影）44
【図 1-101】	外壁部の平面の人造石洗出し（筆者撮影）45
【図 1-102】	床の平面の人造石洗出し（筆者撮影）45
【図 1-103】	土糊の人造石洗出し（筆者撮影）46

【図 1-104】	土糊の人造石洗出し（筆者撮影）46
【図 1-105】	型製造の人造石洗出し（筆者撮影）46
【図 1-106】	型製造の人造石洗出しの型（筆者撮影）46
【図 1-107】	1901（明治 34）年の『病室構造ノ仕様書』47
【図 1-108】	台北市文化財の水源地唧筒室（筆者撮影）47
【図 1-109】	大稻埕永樂町の市区改正計画（引用旧絵葉書、中原大學近代建築研究室蔵）48
【図 1-110】	台北本町街並みの改築（引用旧絵葉書、中原大學近代建築研究室蔵）48
【図 1-111】	左官兼剪粘職人 郭三川氏（郭互富提供）49
【図 1-112】	左官兼剪粘職人 郭徳蘭氏（郭互富提供）49
【図 1-113】	台湾総督府博物館の修繕（引用台湾省立博物館、台北：省立博物館發行）49
【図 1-114】	贈られた左官工具一式（筆者撮影）49
【図 1-115】	台湾土糊兼剪粘職人（筆者撮影）50
【図 1-116】	台湾の伝統的な剪粘（筆者撮影）50
第 2 章 人造石塗に関する技法と貼付材料、交趾焼の変遷		
【図 2-1】	下地の処理（筆者撮影）51
【図 2-2】	上塗り後、鏝で表面を撫で（筆者撮影）51
【図 2-3】	木製の目地棒をセメントペーストやモルタルで固定する（筆者撮影）52
【図 2-4】	下地の清掃と処理（筆者撮影）52
【図 2-5】	種石を練り合わせたモルタルを上塗り（筆者撮影）52
【図 2-6】	種石を練り合わせたモルタルを上塗りした（筆者撮影）52
【図 2-7】	噴霧器を使い、モルタルを洗浄し（筆者撮影）52
【図 2-8】	種石を表面に露出させ（筆者撮影）52
【図 2-9】	上塗り後、表面が硬化し始めた頃（筆者撮影）53
【図 2-10】	噴霧器を使って洗い出し（筆者撮影）53
【図 2-11】	旧式手動の噴霧器設備（筆者撮影）54
【図 2-12】	手動式の噴霧器を使う（筆者撮影）54
【図 2-13】	手動式の噴霧器を実演する（筆者撮影）54
【図 2-14】	表面に新聞紙を貼り付け、石粉を塗り（筆者撮影）54
【図 2-15】	下地の清掃と処理（筆者撮影）55

【図 2-16】	水を塗り付け（筆者撮影）55
【図 2-17】	灰泥を塗り付け（筆者撮影）55
【図 2-18】	様々な形を作り、装飾し（筆者撮影）55
【図 2-19】	噴霧器を使い洗い出す（筆者撮影）55
【図 2-20】	土糊の人造石洗出しの完成（筆者撮影）55
【図 2-21】	内枝外葉の技法（筆者撮影）56
【図 2-22】	葉面の模様をM字型に（筆者撮影）56
【図 2-23】	内部に骨組みが必要（筆者撮影）57
【図 2-24】	内部に瓦を充填して隙間を埋め（筆者撮影）57
【図 2-25】	赤泥による原料の製作（郭互富提供）57
【図 2-26】	脱型後の裁断（郭互富提供）57
【図 2-27】	骨組みの組立作業（郭互富提供）57
【図 2-28】	モルタルを型に入れる作業（郭互富提供）57
【図 2-29】	外側の型を締める（郭互富提供）58
【図 2-30】	型とモルタルの間の剥離剤には鉛パウダーを塗りつけ（郭互富提供）58
【図 2-31】	型から取り出し、装飾する（郭互富提供）58
【図 2-32】	完成品（郭互富提供）58
【図 2-33】	分割（郭互富提供）58
【図 2-34】	セメント製の型（郭互富提供）58
【図 2-35】	内側の型（郭互富提供）59
【図 2-36】	型とモルタルの間の剥離剤に鉛パウダーを塗りつける作業（郭互富提供）59
【図 2-37】	セメントにする型製造（筆者撮影）59
【図 2-38】	塗下地の不良による落下（筆者撮影）61
【図 2-39】	植物による損傷（筆者撮影）61
【図 2-40】	人造石洗出し材料の破損（筆者撮影）61
【図 2-41】	人造石洗出しの破損と表面の補修（筆者撮影）61
【図 2-42】	様々な色の陶器や瓷器（茶碗・皿・瓶・甕など）（筆者撮影）62
【図 2-43】	福建省窯址略圖。福建地区には漳州窯、彰浦窯、廈門窯、同安窯、晉江窯、南安窯、泉州窯、安溪窯、永春窯、仙遊窯、德化窯、莆田窯、福清窯、大田窯がある。（引用中国上海人民美術出版社編、「福建陶磁」、1983年11月、京都：美乃美。）63

【図 2-44】	陶磁器・茶碗・皿・瓶・甕などの破片はすべて剪粘の貼付材料（筆者撮影）63
【図 2-45】	様々 な色の陶器や瓷器（茶碗・皿・瓶・甕など）(筆者撮影)63
【図 2-46】	陶磁器・茶碗・皿・瓶・甕などの破片はすべて剪粘の貼付材料（筆者撮影）64
【図 2-47】	日本時代大正年間における茶碗の剪粘作品（筆者撮影）64
【図 2-48】	何金竜氏の茶碗剪粘作品（筆者撮影）64
【図 2-49】	何金竜氏の茶碗剪粘作品（筆者撮影）64
【図 2-50】	大正七年の茶碗の剪粘作品（筆者撮影）64
【図 2-51】	清朝の茶碗剪粘作品（筆者撮影）64
【図 2-52】	カラーガラスの制作（筆者撮影）65
【図 2-53】	カラーガラスの破片（筆者撮影）65
【図 2-54】	カラーガラスを貼る（筆者撮影）65
【図 2-55】	北港朝天宮屋頂、ガラスの三太子作品（筆者撮影）66
【図 2-56】	武將作品（筆者撮影）66
【図 2-57】	カラーガラスの竜剪粘（筆者撮影）66
【図 2-58】	カラーガラス脱落の竜剪粘（筆者撮影）66
【図 2-59】	北港朝天宮屋頂カラーガラスの剪粘作品（筆者撮影）66
【図 2-60】	1953 年台北竜山寺の修復工事でガラス片の剪粘作品（筆者撮影）67
【図 2-61】	アクリサンデー板の福祿寿仙人の剪粘作品（筆者撮影）68
【図 2-62】	アクリサンデー板の剪粘作品の質感は良くない（筆者撮影）68
【図 2-63】	花の定型陶製品（筆者撮影）69
【図 2-64】	定型陶片の制作（筆者撮影）69
【図 2-65】	定型陶片を作った花及び葉の剪粘作品（金瓜石勸濟堂、筆者撮影）70
【図 2-66】	定型陶片を作った竜の剪粘作品、竜の尾や竜の鱗や竜の歯など（筆者撮影）70
【図 2-67】	近年剪粘専用の模造茶碗（筆者撮影）71
【図 2-68】	模造茶碗の剪粘作品（筆者撮影）71
【図 2-69】	茶碗の高台部分がついていない（筆者撮影）71
【図 2-70】	高台部分がある茶碗（筆者撮影）71
【図 2-71】	模造茶碗を使った鳥の羽（筆者撮影）72
【図 2-72】	模造茶碗を作った鳥（台北孔廟、筆者撮影）72

【図 2-73】	模造茶碗を作った竜の剪粘作品（筆者撮影）72
【図 2-74】	模造茶碗を作った武將帶騎の作品（筆者撮影）72
【図 2-75】	模造茶碗を作った花鳥の作品（関渡宮、筆者撮影）72
【図 2-76】	模造茶碗を作った仙女散花の作品（新港奉天宮、筆者撮影）72
【図 2-77】	交趾大亀香合73
【図 2-78】	交趾焼の土作りと造形（筆者撮影）75
【図 2-79】	交趾焼の土作りと造形（筆者撮影）75
【図 2-80】	交趾焼の陰干しと素焼き（筆者撮影）75
【図 2-81】	人物造形の交趾焼の後ろ（筆者撮影）75
【図 2-82】	釉薬をかけると絵付け（筆者撮影）75
【図 2-83】	焼成後の交趾焼の完成品（筆者撮影）75
【図 2-84】	窯の容量に限りがあること。作品のサイズが大きすぎる場合には幾つかに分割して窯に入れる（筆者撮影）76
【図 2-85】	小さい作品（人物走獣、器物、花果等）には交趾焼が用いられる。（新港奉天宮、筆者撮影）76
【図 2-86】	潮汕建築屋根の竜鳳装飾の変遷（引用林凱龍、《潮汕老屋》、汕頭大学出版社、p 232、2004 年 12 月）78
【図 2-87】	重修臺郡各建築圖説の台湾郡城図（引用蔣元樞著，國立中央圖書館特藏組編。1983。《重修臺郡各建築圖説》P4。臺北：國立中央圖書館）79
【図 2-88】	台湾郡城屋根上の精巧な装飾はすべて剪粘または鏤絵によって作られた（引用蔣元樞著，國立中央圖書館特藏組編。1983。《重修臺郡各建築圖説》P4。臺北：國立中央圖書館）79
【図 2-89】	台湾郡城屋根上装飾について（引用蔣元樞著，國立中央圖書館特藏組編。1983。《重修臺郡各建築圖説》P40。臺北：國立中央圖書館）79
【図 2-90】	葉王作った懸番（筆者撮影）80
【図 2-91】	尾崎秀真（引用台湾新民報社編，《臺灣人士鑑》，台湾新民報社，昭和 12 年）81
【図 2-92】	葉王の交趾焼（引用尾崎秀真，清朝時代の台湾文化 《台湾文化史説》，台南州共榮會台南支會編，昭和 10 年）81
【図 2-93】	葉王の八仙交趾、寶石釉の釉色を付いた（佳里興震興宮（筆者撮影））81
【図 2-94】	葉王の和合二仙作品（筆者撮影）82
【図 2-95】	葉王の老生作品（筆者撮影）82
【図 2-96】	葉王の壁作品（筆者撮影）83
【図 2-97】	葉王の武將作品（筆者撮影）83

【図 2-98】	蔡騰迎の落款、同治丙寅黏實夏月之初（筆者撮影）83
【図 2-99】	蘇萍、蘇宗覃、蘇陽水の流派の作品（筆者撮影）84
【図 2-100】	何金竜の作品（筆者撮影）84
【図 2-101】	何金竜の作品（筆者撮影）84
【図 2-102】	横浜中華街の寺院（筆者撮影）85
【図 2-103】	姚自来の作品（筆者撮影）85
【図 2-104】	陳天乞の作品（筆者撮影）85
【図 2-105】	昔鶯歌の陶芸工場（引用蘇世徳主編、鶯歌製陶 200 年特展專輯、台北：台北県立鶯歌陶瓷博物館、p43、2004 年）86
【図 2-106】	鶯歌で便座生産の工場（引用蘇世徳主編、鶯歌製陶 200 年特展專輯、台北：台北県立鶯歌陶瓷博物館、p73、2004 年）86
【図 2-107】	陳專友の作品（筆者撮影）86
【図 2-108】	陳天乞の作品（筆者撮影）86
【図 2-109】	林添木（引用賴萬鎮，《林添木師生交趾陶藝展》，嘉義市文化中心，1994 年）87
【図 2-110】	林添木の釉彩研究（筆者撮影）87
【図 2-111】	林添木の作品（筆者撮影）87
【図 2-112】	林添木の人物模型（筆者撮影）87
【図 2-113】	林添木の人物模型と成品（筆者撮影）87
【図 2-114】	昭和 15 年嘉義城隍廟は林添木と陳專友名匠が競り合って完成した作品（筆者撮影）88
【図 2-115】	現代の創作（筆者撮影）89
【図 2-116】	工房において鑄型を使って大量生産する雑な作品（筆者撮影）89
【図 2-117】	昔の交趾焼（筆者撮影）89
【図 2-118】	工房において鑄型を使って大量生産する雑な作品（筆者撮影）89
【図 2-119】	李世逸の現代創作の二十四節氣作品（引用陳秀珠、《台湾交趾陶導覽手冊》、台北：台北県立鶯歌陶瓷博物館、2002 年）90
【図 2-120】	鄭盛宏の現代創作の八音作品（引用陳秀珠、《台湾交趾陶導覽手冊》、台北：台北県立鶯歌陶瓷博物館、2002 年）90
第 3 章 清國職人の影響と台湾本土職人の活躍		
【図 3-1】	何金龍（資料引用：張淑卿 何金龍及其剪粘）《潮汕彩繪翁仔屏特展》p38、2004 年、高雄市立美術館。）91

【図 3-2】	何金龍の八仙画（筆者撮影）91
【図 3-3】	張果老と李鐵拐（筆者撮影）91
【図 3-4】	何仙姑と藍采和（筆者撮影）91
【図 3-5】	佳里金唐殿、何金龍の屋頂剪粘作品は雙龍搶珠（筆者撮影）92
【図 3-6】	佳里金唐殿、武將交戦図（筆者撮影）92
【図 3-7】	佳里金唐殿、何金龍の屋頂剪粘（筆者撮影）92
【図 3-8】	王石發の人造石洗出し作品はとても精細に作成され、高い芸術価値がある（筆者撮影）93
【図 3-9】	佳里震興宮、王保原の剪粘作品（筆者撮影）93
【図 3-10】	何金龍の剪粘は野台戯(台湾の伝統的オペラ)に似てダイナミックな躍動感が与えられる。(筆者撮影)94
【図 3-11】	孫中山と司法院（筆者撮影）94
【図 3-12】	孫中山と中央公論（筆者撮影）94
【図 3-13】	京劇人物表情（筆者撮影）94
【図 3-14】	人物の隈取りの表情は京劇を参考にメイクを施す（筆者撮影）94
【図 3-15】	何金龍の武將人物的戦甲（武將の鎧兜）は槓槌（ハンマー）の形式を使用した。95
【図 3-16】	何金龍の武將人物的戦甲（武將の鎧兜）は槓槌（ハンマー）の形式を使用した。95
【図 3-17】	背景の建築樓閣95
【図 3-18】	界画背景の欄杆95
【図 3-19】	何金龍の絵図（引用：張淑卿 何金龍及其剪粘）《潮汕彩繪翁仔屏特展》p39、2004 年、高雄市立美術館。）96
【図 3-20】	何金龍の絵図（引用：張淑卿 何金龍及其剪粘）《潮汕彩繪翁仔屏特展》p39、2004 年、高雄市立美術館。）96
【図 3-21】	洪坤福の交趾焼作品（資料引用：《彩塑人間 臺灣交趾陶藝術展》，1999 年。）97
【図 3-22】	北港朝天宮の屋根は剪粘、鏝絵、交趾焼と飾られ、柯訓、柯仁来と洪坤福が作られる作品（資料引用：《ALBUM FORMOSAN》，1927 年）(筆者翻攝自犬塚書店，1927《ALBUM FORMOSAN》，新竹：犬塚書店發行)97
【図 3-23】	昭和 10 年の北港朝天宮屋頂の剪粘、鏝絵と交趾焼、洪坤福と弟子達で作った作品(資料引用：池上清得、《台灣寫真大觀》，1936 年、台北：台湾教育資料研究會)98
【図 3-24】	北港朝天宮三川殿の剪粘と交趾焼（引用山崎均一郎，1935《台灣全名勝寫真帖》，日本：日本和歌山寺發行)98
【図 3-25】	台北龍山寺三川殿、洪坤福が作られた銅鑄龍柱（筆者撮影）101

【図 3-26】	台北龍山寺三川殿の銅鑄龍柱（筆者撮影）101
【図 3-27】	台北龍山寺三川殿の銅鑄八仙（筆者撮影）101
【図 3-28】	嘉義新港奉天宮洪坤福が作られた交趾焼（筆者撮影）101
【図 3-29】	台北保安宮正殿の水車堵、洪坤福の交趾焼作品（筆者撮影）102
【図 3-30】	台北龍山寺、洪坤福の虎堵交趾焼（筆者撮影）102
【図 3-31】	台北龍山寺、洪坤福の龍堵交趾焼（筆者撮影）102
【図 3-32】	台北保安宮正殿の虎壁は交趾焼「己未秋月銀同鷺江洪坤福」の落款がある（筆者撮影）102
【図 3-33】	台北保安宮正殿竜壁は「己未秋月銀同鷺江洪坤福」の落款がある（筆者撮影）102
【図 3-34】	昭和 10 年の北港朝天宮屋頂の剪粘、鏤絵と交趾焼、洪坤福と弟子達陳天乞・張添發・陳專友・姚自来・江清露が作った作品（資料引用：池上清得、《台湾寫真大觀》，1936 年、台北：台湾教育資料研究會）103
【図 3-35】	陳天乞（筆者撮影）104
【図 3-36】	陳天乞の武將剪粘（筆者撮影）104
【図 3-37】	陳天乞が大正年間、台北三重林氏古厝の茶碗剪粘（筆者撮影）105
【図 3-38】	陳天乞が 1960 年代、桃園平鎮褒忠亭に封神演義の交趾焼(康諾錫氏撮影)105
【図 3-39】	1970 年代、壽山岩觀音寺屋頂の排頭の交趾焼作品（筆者撮影）105
【図 3-40】	1963 年の台北龍山寺前殿の屋根（筆者撮影）106
【図 3-41】	1963 年の台北龍山寺前殿の屋根、龍側の制作者が張添發（虎側の制作者が陳天乞）、張氏が人物交趾焼きの比例、風格スタイル、細部手法等を駆使し異なる作品が作り上げられる。（筆者撮影）106
【図 3-42】	陳專友夫婦（陳義雄氏提供）107
【図 3-43】	士林神農宮、陳專友の武將帶騎作品（筆者撮影）107
【図 3-44】	麻豆代天府の交趾焼作品（筆者撮影）107
【図 3-45】	姚自来（筆者撮影）108
【図 3-46】	台北孔廟、94 才の姚自来と交趾焼作品（筆者撮影）108
【図 3-47】	北港朝天宮、江清露の剪粘作品(康諾錫氏提供)109
【図 3-48】	江清露の童子交趾焼109
【図 3-49】	江清露（許哲彦氏提供）109
【図 3-50】	江清露の老生造型109
【図 3-51】	1953 年台北龍山寺は陳天乞、張添發、姚自来の作品（筆者撮影）111

【図 3-52】	五虎將の落款（筆者撮影）112
【図 3-53】	五虎將作品の題材、封神演義の交趾焼作品（筆者撮影）112
【図 3-54】	陳三火（引用麻豆區公所全球資訊網）114
【図 3-55】	李世逸（引用林文嶽、李世逸剪黏泥塑專輯、2003 年、台南縣政府）114
【図 3-56】	台中豐原慈濟宮、陳三火が廃棄物再生利用の考えが浮かび（筆者撮影）114
【図 3-57】	陳三火の道具（筆者撮影）115
【図 3-58】	剪粘創作の「達摩」作品（筆者撮影）115
【図 3-59】	白露作品の白衣（引用李玲蓉、『火獅之變』p61、2008 年、台南縣政府出版）116
【図 3-60】	割れた花瓶を鍾馗の腹部にぴったりだった（筆者撮影）116
【図 3-61】	七爺八爺作品の人物や衣服の揺らめき感によって形成される動感（引用李玲蓉、『火獅之變』p43、2008 年、台南縣政府出版）117
【図 3-62】	甘柳將軍の剪粘作品の動態感（引用李玲蓉、『火獅之變』p44、2008 年、台南縣政府出版）117
【図 3-63】	二十四節氣の小寒大寒、小寒は黒無常、大寒は鬼差である。（筆者撮影）118
【図 3-64】	コブラ剪粘作品の強烈な動態感（筆者撮影）118
【図 3-65】	雲林拱範宮屋頂の仙人剪粘、人物の正面を装飾し、背面はセメントを塗る（筆者撮影）119
【図 3-66】	人物背面はセメントを塗る（筆者撮影）119
【図 3-67】	立体彫刻の浮き彫りは更に複雑で、細部処理、仕上げ等の修正や克服が必要となる。（筆者撮影）119
【図 3-68】	陳三火が招財獸剪粘の立体彫刻を試して作った（筆者撮影）120
【図 3-69】	陳三火は陶磁器瓶の選用に對し、更に高い鋭さを具える必要があり、材料本体の曲線に従えば、思い通りに創作できると考える。（筆者撮影）120
【図 3-70】	現代体操（筆者撮影）121
【図 3-71】	バスケットボール（筆者撮影）121
【図 3-72】	台湾民俗の跳鼓陣と擬人化の剪粘創作（筆者撮影）121
【図 3-73】	牡蠣の殻を作ったウサギ（筆者撮影）122
【図 3-74】	牡蠣の殻を作ったいのしし（筆者撮影）122
【図 3-75】	関羽が酒瓶にある商標名をわざと残して服飾に用い（筆者撮影）123
【図 3-76】	忌避することなく鍾馗の顔面に剪粘したり、花瓶に元々あった図案を残した（筆者撮影）123
【図 3-77】	海龍王の剪粘作品には、わざと熊の顔に破片を残した（筆者撮影）124
【図 3-78】	酒瓶にある女性の顔をわざと残して服飾に用い、忌避することなく聖人の関羽に剪粘した（筆124

	者撮影)	
【図 3-79】	(筆者撮影)125
【図 3-80】	2009 年陳三火の剪粘展覧会(陳三火氏提供)126
【図 3-81】	陳三火の工藝之家(筆者撮影)126
【図 3-82】	陳三火剪粘教室の作品(筆者撮影)126
【図 3-83】	陳三火剪粘教室で学員の作品(筆者撮影)126
第 4 章 職人の対場競作と傳承制度の検討		
【図 4-1】	1928 年に再建された台北孔子廟の木造の対場競作(出典:李乾朗、『台湾古建築圖解事典』、遠流出版社、2003 年)127
【図 4-2】	立面石彫の対場競作(出典:李乾朗、『廟宇建築』p66、北屋出版事業股份有限公司、1983 年)127
【図 4-3】	1925 年に再建された台北県定古跡二重埔先聖宮の競作建築作品(筆者撮影)128
【図 4-4】	1918(大正 7)年の台北保安宮、上図背景は龍の側の制作者:洪坤福・柯仁来・陳天乞・張添發、下図背景は虎の側の制作者:陳旺来。現在、1918(大正 7)年残った作品は水車堵の背景と配景しかない。(筆者撮影)129
【図 4-5】	台北龍山寺は四等分に分けられ、協力の対場作の職人は蘇揚水、朱朝鳳、陳天乞、姚自来、張添發(筆者撮影)130
【図 4-6】	台北青山寺で協力の対場作の作品(筆者撮影)130
【図 4-7】	新竹竹蓮寺協力の対場作、龍堵は陳天乞、虎堵は朱朝鳳(筆者撮影)130
【図 4-8】	1930 年の台北保安宮正殿、屋根牌頭の風格スタイル、細部手法も違う(出典:山崎均一郎、1935《台湾全名勝寫真帖》,日本:日本和歌山寺發行/台湾紹介)131
【図 4-9】	台北保安宮平面(出典:田中大作、『台湾島建築之研究--台湾島の建築に関する研究:台湾建築の全貌』國立台北科技大學出版、2006 年)131
【図 4-10】	1918(大正 7)年台北保安宮正殿で、洪坤福の龍虎堵と署名(筆者撮影)131
【図 4-11】	昭和 15(1940)年の嘉義城隍廟の競作建築作品(筆者撮影)132
【図 4-12】	林添木の作品の背景(筆者撮影)132
【図 4-13】	陳專友の作品の背景(筆者撮影)132
【図 4-14】	昭和 15(1940)年の嘉義城隍廟の競作建築作品(筆者撮影)134
【図 4-15】	林添木の作品の背景(筆者撮影)134
【図 4-16】	陳專友の作品の背景(筆者撮影)134
【図 4-17】	1963 年の台北龍山寺前殿の屋根、龍の側の制作者が張添發(下図)、虎の側の制作者が陳天乞(上図)、人物交趾焼きの比例、風格スタイル、細部手法等を駆使し異なる作品が作り上げられ135

	る。(筆者撮影)	
【図 4-18】	麥寮拱範宮、陳天乞、陳專友、姚自來の交趾焼作品(筆者撮影)136
【図 4-19】	麥寮拱範宮、陳天乞、陳專友、姚自來の交趾焼作品(筆者撮影)136
【図 4-20】	1957 年の台北龍山寺正殿の屋根、陳天乞、張添發、姚自來、朱朝鳳を始めとする四組の傑出した職人達の手でそれぞれ施工された。137
【図 4-21】	永和保福宮の協力対場作(筆者撮影)138
【図 4-22】	1956 年佳里金唐殿の建築工程、当時ヤングの王保原職人(邱烟上の旧写真を複写する)139
【図 4-23】	台湾早期民家の修理(引用黄金田、台湾生活圖曆、2002 年、台北:玉山社出版有限公司)140
【図 4-24】	台湾早期焼き物の制作(引用黄金田、台湾生活圖曆、2002 年、台北:玉山社出版有限公司)140
【図 4-25】	日本漆喰の研修学習会、日本左官職人と台湾左官職人の交流(筆者撮影)141
【図 4-26】	日本漆喰の研修学習会、日本左官職人の現場解説と施作(筆者撮影)141
【図 4-27】	建築物の屋根の上、剪粘職人の工事現場(筆者撮影)142
【図 4-28】	1999 年、九二一大地震で壊れた台中霧峰林家(筆者撮影)143
【図 4-29】	国家重要民族芸術芸術師の林再興職人(筆者撮影)149
【図 4-30】	2004 年、当時 94 才の伝統工芸家姚自來(筆者撮影)150
【図 4-31】	葉王の作品(筆者撮影)151
【図 4-32】	潮州何金龍の剪粘作品(筆者撮影)151
【図 4-33】	屋根上の剪粘作品、碗片やガラスなどの表面材質が剥がれやすい(觀音保生大帝廟、筆者撮影)152
【図 4-34】	屋根上の剪粘は時間と共に劣化して原型を失い、元通りに修復するのは非常に困難である。(雲林麥寮拱範宮、筆者撮影)152
【図 4-35】	北港朝天宮は、ガラスと剪粘の芸術的・技術的結合の極地たるもの(筆者撮影)153
【図 4-36】	ガラス片(左)と定型陶片(右)の剪粘比較(筆者撮影)153
【図 4-37】	陳專友陳義雄専用道具(筆者撮影)154
【図 4-38】	日本統治時代郭三川職人が日本左官工からの左官道具(筆者撮影)154
【図 4-39】	陳世仁職人の左官装飾工程図説を收藏する(筆者撮影)154
【図 4-40】	北港朝天宮の水車堵、透明ガラスを覆っている。(筆者撮影)155
【図 4-41】	大稻埕城隍廟の重要な剪粘作品、透明ガラスを覆っている。(筆者撮影)155
【図 4-42】	元學甲慈濟宮屋頂の交趾焼作品、今は學甲慈濟宮の室内に展示する(筆者撮影)155
【図 4-43】	清代石釉の交趾焼は緑、黄、褐色などの釉薬用い低温で焼成した焼き物(筆者撮影)156
第 5 章 結論		

【図 5-1】	王保原の剪粘略圖（引用黄秀蕙、「巧手天成」p92、2011 年、台南市政府文化局）157
【図 5-2】	封神演義題材「南天門」の水車堵構図と作品現況（筆者撮影）158
【図 5-3】	人物地位の違いによる主従関係を表す（筆者撮影）158
【図 5-4】	三層式の排頭（筆者撮影）158
【図 5-5】	日本職人から贈られた左官工具一式（筆者撮影）159
【図 5-6】	台北本町街並みの改築（引用旧絵葉書、中原大學近代建築研究室蔵）159
【図 5-7】	陶磁器・茶碗・皿・瓶・甕などの破片はすべて剪粘の貼付材料（筆者撮影）161
【図 5-8】	ガラスの武將作品（北港朝天宮、筆者撮影）161
【図 5-9】	模造茶碗を作った仙女散花の作品（新港奉天宮、筆者撮影）161
【図 5-10】	林添木の人物模型（筆者撮影）162
【図 5-11】	交趾焼の土作りと造形（筆者撮影）162
【図 5-12】	葉王の八仙、寶石釉の釉色を付いた（佳里興震興宮（筆者撮影））162
【図 5-13】	何金龍の国画（筆者撮影）163
【図 5-14】	何金龍の剪粘（筆者撮影）163
【図 5-15】	洪坤福の作品（筆者撮影）163
【図 5-16】	姚自来（筆者撮影）164
【図 5-17】	現代体操（筆者撮影）164
【図 5-18】	陳三火作品（筆者撮影）164
【図 5-19】	1918（大正 7）年の台北保安宮、上図背景は龍の側の制作者：洪坤福・柯仁来・陳天乞・張添發、下図背景は虎の側の制作者：陳旺来。現在、1918（大正 7）年残った作品は水車堵の背景と配景しかない。（筆者撮影）165
【図 5-20】	2005 年 1 月、95 才の左官装飾職人姚自来（筆者撮影）167

表一覧

序論		
【表 0-1】	インタビュー職人及び関係者8
第1章 図説の絵画製作と道具、材料の変遷		
【表 1-1】	郭三川左官道具の測量記録34
【表 1-2】	郭三川左官道具の測量記録35
【表 1-3】	昭和十一年七月『人造石砂利』價目表36
第2章 人造石塗に関する技法と貼付材料、交趾焼の変遷		
【表 2-1】	人造石洗出し形式の比較60
【表 2-2】	形物相合相撲74
【表 2-3】	石湾焼と交趾焼の比較表77
【表 2-4】	葉王作品の保存状況80
【表 2-5】	林添木の伝承系譜表88
第3章 清國職人の影響と台湾本土職人の活躍		
【表 3-1】	何金龍作品の現況表92
【表 3-2】	泉州派洪坤福の伝承系譜表99
【表 3-3】	洪坤福と弟子達の作品表100
【表 3-4】	五虎將における対場競作の作品110
【表 3-5】	五虎將の伝承系譜表113
第4章 職人の対場競作と傳承制度の検討		
【表 4-1】	大工の対場作作品128
【表 4-2】	泉州洪坤福の流派における対場作の作品133
【表 4-3】	1978年の「加強文化及育樂活動方案」の内容144
【表 4-4】	文化資産保法を修訂後の比較146
第5章 結論		
【表 5-1】	人造石洗出し形式の比較160